

研修医通信 2017年4月号 第77号 山崎 遥(東京大学医学部付属病院)

研修医2年目のスタートを紀南病院で切らせていただきました。以下、研修日誌の抜粋です。

- ・病棟：患者を初めから診て治療方針に関わったり、東大病院ではなかなか見学できない消化器系処置を見学でき、とても勉強になった。ほぼ全員が後期高齢者であり、お看取りのICも経験した。自分たちは病気を治したくて治療しているので、治療をどこで終了するか判断はつらいものだと感じた。
- ・救急外来素早くトリアージをし、検査をオーダーし、患者を帰してよいか判断する、流れとしてはシンプルであるはずなのに慣れていないと情報の取捨選択がうまくいかずスムーズな診療はとても難しかった。
- ・エコー室：濱浦さんに教えていただき、経験がほぼなかった心エコーを経験することが出来、大変勉強になった。継続してトレーニングする必要があると感じた。
- ・タウンミーティング：奥野先生と西さんと共に阿田和から山の方に車で30分ほどの集落に伺い、住人の方と健康についておしゃべりした。病院へのアクセスが簡単ではない地域ではこのような会があるというのは住人にとって心強いだらうと感じた。
- ・紀和診療所：濱口先生のご指導のもと外来診療と学校健診を担当した。学校健診は幼稚園・小学校・中学校で行った。外来では70-90歳台の患者が多かったのとは対照的で、地域の医師に求められる知識の幅広さを痛感した。

休日：間下さんに誘っていただき馬越峠、天狗倉山、羽後峠、曾根次郎坂・太郎坂を歩いた。とてもきつかったが見えた景色は格別だった。

様々な業種の方・地域の方の尽力により、非常に実り多い研修をさせていただきました。特に指導医の森川先生をはじめとした先生方や総務の方々、看護師さん方、エコー室の濱浦さん・山田さんには大変お世話になりました。ありがとうございました。この研修で得たものを専門科に進んだ時にも活かせるよう、東大病院に戻ってからも研鑽したいと考えています。

